親思う（吉田松陰）

親思う　心に　まさる　親心

今日の　おとずれ　何と　聞くらん

解説　「安政の大獄」の最後の犠牲者である松陰は、捕まった後も幕府に対し自分の思想が正しい事を主張しますが、受け入れられることはありませんでした。斬首刑が決まり、死を潔く受け入れた松陰が、故郷の両親に宛てて詠んだ詩。

語釈　※心に勝る親心＝親が子どもを思う気持ちの方が強いことだろう。

通釈　子どもが親を思う気持ちよりも、親が子どもを思う気持ちの方が強いことだろう。今日の処刑の知らせをどんな気持ちで聞くのだろう、と、親の気持ちを想像しながら詠んだ切ない句です。